

# 田代山

2012年8月5日 リーダー:饗庭 和重



## 田代山山行記 饗庭和重



▲登山途中の休憩

▼田代山の湿原を進むメンバー達。一面キンコウカのお花畠でした。



6時35分に久喜インターより高速に乗り、西那須野塩原インターを8時5分に降りました。福島の山は場所により時間がかかるので早めにと意識していましたが、登山口についたのは10時30分。手前11キロにも及ぶ砂利の山道が時間をとってしまいました。専属?のドライバー館山さんはそれをものともせず運転してくれたので、たのもしさを感じました。

登りがほとんどの山道でしたし、弱体の私にはきつい登山でした。西谷さんが3分の1あたりでバスに戻る決断をしていましたが、リーダーでなかつたら私も戻りたかったです。以前の様なのがりができず、山頂に着いたのは1時少し前。急に開けた湿原の景色に苦しさも吹き消されたようでした。

余裕あれば帝釈山もというのは、とんでもないのことでした。30分の昼食の後下山しました。今回病気や家事都合により参加者の人数が19名となり、いつもの小型バスで行きましたが、中型の手配も検討してくれるよう無理をお願いしたバス会社の青木さんには、資料の送付等いろいろお世話をかけました。感謝します。

いつもながらメンバーの機転や協力で無事行ってこられましたし、何よりうれしいのは市川さんがバス係りとしてデビューしてくれたことでした。早速トイレ休憩後の出発に豊島さんを忘れて発車しようとするハプニングもありましたが、この失敗が功を奏したのかそれ以降立派に帰りのバス係りをしていました。少しずつ後任を育てていくという伊藤さんの思いができつつあります。

頼りないリーダーではありましたが、「リーダーの指示には従い集団行動を取る」という遊友ならではの精神で皆さん行動してくれて、山行以上に楽しい一日を過ごすことができました。ありがとうございました。

## 8月山行「田代山」に参加して 戸邊茂雄

8月5日(日)、「田代山」山行に参加しました。田代山(標高1,926.3m)は、福島県と栃木県の県境に位置し、帝釈山脈を代表する南会津の名峰です。山頂には広大な湿原と池塘があり、高山植物の宝庫でもあります。田代(たしろ)とは田んぼや湿原のことをいいます。田代山の湿原は、雪や雨による水分と水はけの悪い地層によってもたらされたもので、全国的にもめずらしい景観です。朝5時45分にせんげん台で5人、6時に春日部で14人乗車して総勢19人で出発しました。運転手はいつもの館山さんです。6時30分に久喜ICから東北自動車道に乗り、8時06分に西那須野塙原ICで降り、国道400号、121号、352号を進んで10時25分に猿倉登山口に到着しました。既に駐車場はマイカーで一杯でした。最後の方は細い砂利道が続き、今回も名ドライバー館山さんの技術が發揮されました。また、行きのバスの中では先週行った「槍ヶ岳」のDVDも放映されて盛り上りました。

鳴原さんのリードで準備体操を行い、10時45分に登山開始です。細い山道を一列になって登って行きましたが、風がなく蒸し暑く、虻が纏わりつきます。結局、この虻は最後まで離れなくてついてきました。帰りのバスの中までもついてくる始末です。登ること1時間15分、12時に小田代に到着です。小田代は、その名の通り本当に小さな湿原でした。小田代を通過して半時ほど後、12時35分に田代湿原に着きました。黄色い花のキンコウカが湿原一面を覆っていて黄色い絨毯がひかれていました。チングルマやワタスゲはもう既に花が終わっていました。高山植物を鑑賞したり、写真を撮ったりしながら整備された木道を歩いて12時55分に弘法大師を祭った太子堂(避難小屋)に着きました。そして、ここでお昼になりました。時間があれば帝釈山も

▲キンコウカ

覆っていて黄色い絨毯がひかれていました。チングルマやワタスゲはもう既に花が終わっていました。高山植物を鑑賞したり、写真を撮ったりしながら整備された木道を歩いて12時55分に弘法大師を祭った太子堂(避難小屋)に着きました。そして、ここでお昼になりました。時間があれば帝釈山も



登る予定でしたが、余裕がないので13時30分にここから引き返すことになりました。来る時の登りは2時間半もかかったのに戻りの下りは1時間半です。15時丁度に登山口に到着しました。我々の仲間は、いつも下りが異常に早いように思います。温泉やビールに魅かれるためでしょうか?

15時10分に猿倉登山口を出発して帰路につきましたが途中、会津高原温泉「夢の湯」で温泉につかり、ビールを飲みました。入浴料は500円、ビール(500ml)も500円でした。その後も春日部に着くまでバスの中で飲み続けました。またバスの中では、今月古希を迎えた西谷さんに伊藤会長から記念品の贈呈などもあり、賑やかに時間が過ぎてゆきました。春日部には21時15分、せんげん台には21時30分に到着して無事に「田代山」山行が終了しました。その後せんげん台組は、全員でいつものように反省会を行って私は10時45分に帰宅しました。リーダーの饗庭さん、会計係の品川さん、西谷さんはじめ皆様お世話になりました。



▲帰りのバスの中で記念品の贈呈

## 田代山お疲れ様でした

楽しい山行でしたね、頂上での記念写真に入れなかった私を可哀想に想いトップに載せて頂き有難う御座いました。お風呂上りのスッピンでしたが。。。

皆様に古希のお祝いをしていただき笑顔一杯でした。  
70歳を迎えてまだ遊友の皆様と山に行ける事 会長はじめ仲間の皆様に感謝しています。TOBEさん 写真有難うございました。《西谷栄子》

## 2012年10月山行案内 秋田駒ヶ岳 1,637m

### リーダー：豊島 泰／佐藤きよみ

秋田駒ヶ岳(あきたこまがたけ)とは、秋田県仙北市と岩手県岩手郡雫石町に跨る活火山である。十和田八幡平国立公園の南端。標高1,637m。全国に数多い駒ヶ岳のなかで最も高山植物の豊富な山として知られる。各地の駒ヶ岳と区別するために秋田駒ヶ岳と呼ばれている。近隣では愛称をこめた短縮形で「秋田駒(あきたこま)」とも呼ばれる。昔は女人禁制の信仰の山であった。火口丘の女岳は1970年(昭和45年)9月噴火し、山頂西部に溶岩流を堆積させた。山頂一帯に咲くヒナザクラやタカネスマレ、コマクサ、エゾツツジなどの数百種類の高山植物群は、1926年(大正15年)2月、秋田駒ヶ岳高山植物帶として国の天然記念物に指定された。(ウィキペディアより写真共)

- 山行日：**10/13(土)・14(日)
- 集 合：**せんげん台駅前=5時45分 春日部駅前=6時00分
- 宿 泊：**「乳頭温泉・鶴の湯」¥8550(概算)
- 持ち物：**13日の昼食、宿泊・入浴セット、雨具等
- 参加者：**伊藤ま、饗庭、佐藤き、豊島、藤井、小倉、市川、伊藤ゆ、北山、木下、鳴原、品川、鈴木は、高橋、知名、戸邊、宮越、松島(ゲスト)、浜ちゃん、梅沢
- 13日(土)の昼食は盛岡付近の適当なお店で摂る予定です。昼食の用意は必要ありません。
- 申し込みは締め切りました。

